

学力向上に効果のある取組事例

別府市立緑丘小学校

①「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」に向けた取組

取組の具体①: チェックテストを核とした組織的取組

【取組内容】

(1) チェックテスト

- ・チェックテスト後に学習内容の定着状況を確認し、授業時の再指導、宿題での指導、補充学習（みどりタイム）、長期休業時の課題としての取組等を実施した。
- ・授業改善の取組として「対話型学習＋児童が自分の言葉でまとめを書く活動」を実施した。（主として算数）
- ・2、3学期始チェックテストでは、実施前までの指導・支援の効果や定着状況を再確認した。

※チェックテスト

- ・各学期末まとめテスト（低学年：国算、中高学年：国算理）
- ・R5は「目標点80を超えた児童数比が「知識・技能」では学級の70%以上、「思考・判断・表現」では学級の60%以上」を目標に実施している。

(2) その他の取組

- ・チェックテストに関する目標や取組は4点セットに明示し、各教職員の目標管理シートとも連動させた
- ・補充学習（みどりタイム）や算数における「児童の言葉によるまとめ記述」等の実施については教員セルフチェック等を用い、確実に実施してきた。
- ・チェックテスト用Excelファイルを教務主任が管理。学級や学校の目標達成状況、得点分布等を確認して指導・支援に活かすようにした。

【1年間の取組の流れ】

○1学期末チェックテスト

- （1学期学習内容の定着状況の確認）
- ↓ 達成状況、職員取組状況確認

○2学期末チェックテスト

- （2学期学習内容の定着状況の確認）
- ↓ 達成状況、職員取組状況確認

○3学期末チェックテスト

- （3学期学習内容の定着状況の確認）
- ↓ 達成状況、職員取組状況確認
次年度1学期始チェックテスト

取組の具体②: チェックテストの分析を学年の取組につなぐ

【チェックテストの結果と4点セットの評価および学力向上プランの達成指標との連動】

(1) チェックテストの結果を学年ごとに出し、そこから全校結果を導き、4点セットの評価につなぐ。

① 本年度1学期のチェックテスト（知・技）の結果（学力向上プランの達成指標）

結果 目標達成児童の割合が70%を超えた教科数は32中24である。
達成率は、92.3%で、評価はAである。

② 本年度1学期のチェックテスト（思考・判断・表現）の結果

結果 目標達成児童の割合が70%を超えた教科数は32中22である。
達成率は、84.6%で、評価はAである。

③ 以上の結果・分析から学校全体の取組を検討する。

「思考・判断・表現」の達成率は、84.6%であることから、「知識・技能」同様、ほぼ定着していると考えられる。また、理科では、全学年が目標を達成していることから、理科的な「思考・判断・表現」する力が育っていると考えられる。しかし、算数科では、12教科中5教科で60%達成ができていないことから、算数的思考力の積み上げが喫緊の課題となる。このことに対しては、各学年の見直しから、課題点を明らかにし改善するための取組を行う必要がある。学校全体として、低くなっている要因の1つとして、知っている知識を自分なりに考え表現することがうまくできていないことが考えられる。「思考・判断・表現」の不足を補うために、今年度は4点セットには『「児童の言葉によるまとめ記述」を算数実施時数の60%以上実施する。』を設定した。セルフチェックの達成率は、昨年度92.4%に対して本年度は80%である。このことから、児童の言葉によるまとめ記述については、本年度の実践が進んでいないと考えられる。「知識・技能」にかける授業時間数と、「思考・判断・表現」にかける授業時間数のバランスも含めて、今後校内研究・研修を通して改善していく必要があると考える。

(2) 全校分析から学年分析へ

① 本年度(例:5年生)のチェックテストと大分県学力状況調査の結果分析と今後の取組について

1学期末のチェックテスト達成割合

(国語)

正答率	0～20%	20～40%	40～60%	60～80%	80～100%	目標得点達成率
知識・技能	0%	0%	2.1%	17.0%	80.9%	80.9%
思考・判断・表現	0%	2.1%	2.1%	19.1%	76.6%	76.6%

(算数)

正答率	0～20%	20～40%	40～60%	60～80%	80～100%	目標得点達成率
知識・技能	0%	0%	8.5%	14.9%	76.6%	76.6%
思考・判断・表現	0%	10.6%	17.0%	17.0%	55.3%	55.3%

(理科)

正答率	0～20%	20～40%	40～60%	60～80%	80～100%	目標得点達成率
知識・技能	0%	0%	6.3%	4.2%	89.6%	89.6%
思考・判断・表現	0%	0%	2.1%	27.1%	70.8%	70.8%

大分県学力定着状況調査結果

【5年生】	国語			算数			理科		
	正答率	知識	活用	正答率	知識	活用	正答率	知識	活用
学校(A)	75.3	78.9	67.1	75.7	78.1	71.1	79.5	81.2	74.7
別府市(B)	71.4	75.0	63.2	66.9	70.1	60.8	69.9	73.1	60.9
県(C)	71.5	75.4	62.7	68.1	71.4	61.8	67.7	71.1	58.6
差(A-B)	3.9	3.9	3.9	8.8	8.0	10.3	9.6	8.1	13.8
差(A-C)	3.8	3.5	4.4	7.6	6.7	9.3	11.8	10.1	16.1

① チェックテスト(知識・技能)について

どの教科も知識・技能の目標得点80%以上の児童の割合が70%以上と積み上げの成果が表れている。子どもの理解度を見極めながら毎日の授業内容の工夫が基礎的・基本的の学習定着に繋がったと考えられる。しかし正答率80%未満の児童が国語では19.1%、算数では23.4%と約2割を占めており、基礎的・基本的な学習の理解が不十分であることがわかる。算数は、既習事項の理解が新しい単元学習の理解につながるため、今後も既習事項の復習に力を入れて取り組むとともに、対話型授業・みどりタイムでの補習や教え合い・家庭学習などを活用することで弱点の強化を一層図っていく必要がある。

② チェックテスト(思考・判断・表現)について

国語・理科は思考・判断・表現の目標得点達成率は目標値を上回っているが、算数は目標値を下回っている。問題場面を考えて式を立て、答えを求めること、筋道立てて問題を考えて説明することが十分でない傾向にある。算数でより顕著に表れているが、国語においても苦手傾向にある。特に、問題を正しく読み取るために読解力、問われたことに対して自分の考えを適切に説明する力に課題があると感じる。語彙力を含めた基礎的・基本的な学習内容の定着とともに、対話型授業の中で自分の言葉を使って説明する機会をできる限り多く取り入れることで、思考・判断・表現の向上をめざしていく必要がある。

③ 大分県学力状況調査の分析

3教科とも市、県正答率をともに上回っていた。みどりタイムや家庭学習で既習事項の復習に取り組んだ成果と言える。全国正答率を下回っていた問題は、【国語】話し合いの内容を聞き取る(-2.6P)・4学年の漢字を書く(-8.8P)・連用修飾語についての理解(-1.7P)・物語文の登場人物の気持ちの変化について具体的に想像していること(-5.9P)・物語文で文章を読んで感じたことや考えたことの共有(-9.2P)・説明文を段落相互の関係を捉えて読むこと(-6.7P)であった。【算数】・小数第1位～小数第2位の計算ができる(-6.7P)・四角形の対角線の性質を理解している(-11.7P)であった。【理科】・方位磁針の使い方を身につけている(-2.3P)であった。正答率が全国平均を上回っていても無回答率の高い問題もあり、活用問題に課題があると考えられる。

学力テストの結果からも①・②の課題と重なるところがあり、前学年までの学習内容をより一層定着させるとともに、活用問題に対応できるよう授業改善を図っていく必要がある。

②本年度(例:6年生)のチェックテストと全国学力定着状況調査の結果分析と今後の取組について

(国語)

正答率	0～20%	20～40%	40～60%	60～80%	80～100%	目標得点達成率
知識・技能	0%	0%	2.4%	2.4%	95.2%	95.2%
思考・判断・表現	0%	0%	4.8%	0%	95.2%	95.2%

(算数)

正答率	0～20%	20～40%	40～60%	60～80%	80～100%	目標得点達成率
知識・技能	0%	0%	0%	7.1%	92.9%	92.9%
思考・判断・表現	2.4%	11.9%	7.1%	26.2%	52.4%	52.4%

(理科)

正答率	0～20%	20～40%	40～60%	60～80%	80～100%	目標得点達成率
知識・技能	0%	0%	0%	9.8%	90.2%	90.2%
思考・判断・表現	0%	0%	4.9%	12.2%	82.9%	82.9%

全国学力定着状況調査結果

【6年生】	国語			算数		
	正答率	知識 技能	思考 判断 表現	正答率	知識 技能	思考 判断 表現
学校(A)	74	72.1	75.5	70	75.4	62.6
大分県(B)	69	69.2	67.8	64	68.4	58.7
全国(C)	67.2	68.9	65.5	62.5	67.2	56.5
差(A-B)	5.0	2.9	7.7	6.0	7.0	3.9
差(A-C)	6.8	3.2	10.0	7.5	8.2	6.1

①チェックテスト(知識・技能)について

目標得点達成児童の割合が、国語95.2%、算数92.9%、理科90.2%で、達成目標の70%をこえている。授業やみどりタイムでは、定着していない基礎・基本的な既習事項の復習に特化し取りませたり、ドリル学習およびやり直しを着実にこなしたりすることにより成果を上げたと考えられる。今後も基礎基本の学習を丁寧に行い、教え合いややり直し・家庭学習における復習など各単元の内容を定着させるような取り組みを行っていく。

②チェックテスト(思考・判断・表現)について

目標得点達成児童の割合が、国語95.2%、算数52.4%、理科82.9%で、国語、理科は達成目標の60%をこえている。算数においては、文章事実が読み取れていないために、課題で何を問われているかが明確になっていないと考えられる。また、知っている知識を自分なりに考え表現することがうまくできていないことも考えられる。そのため、「対話型授業+児童の言葉によるまとめ記述」を今後も続けて取り組ませている。

③全国学力定着状況調査の分析について

知識・技能においては国語(+2.9P)算数(+7.0P)、思考・判断・表現においては国語(+7.7P)算数(+3.9P)と全ての項目で大分県平均をこえている。また、全国平均でも知識・技能は国語(+3.2P)算数(+8.2P)、思考・判断・表現は国語(+10.0P)算数(+6.1P)とこえている。全国正答率を下回っていた問題は、【国語】・情報と情報の関係づけの仕方(-7.2P)・日常使われる敬語/おっしゃる⇒申す/うかがう⇒お聞きになる(-2.8P)【算数】・高さが等しい三角形の底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し説明する(-4.1P)・66÷3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ(-7.1P)であった。国語は知識・理解、算数は思考・判断・表現の問題に課題があると考えられる。前学年までの学習内容をより一層定着させるとともに、多様な問題形式に対応できるよう授業改善を図っていく必要がある。